



ご挨拶

第30回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 大賀 正一

九州大学大学院医学研究院成長発達医学

第30回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を2020年12月21日（月）～26日（土）の6日間、COVID19感染拡大のため6月より延期してWebにて開催いたします。このたびは伝統ある本学会の節目となる第30回の学術集会長を拝命し、大変光栄に存じます。

この学会は、血液学の中でも血栓止血の生理的機構と様々な病態の解明にとりくむ基礎から臨床まで幅広い領域の研究者が集う学会です。周産期の出血と血栓から母と児を守るために、産婦人科医と新生児・小児科医が輸血や臨床検査を専門とする先生方とともに、血液学のアカデミズムを医療の実践に生かすことのできるユニークな学会です。

本学会の創設は1991年の第1回学術集会（寺尾俊彦会長、浜松医科大学産婦人科）に遡り、私共九州大学では2008年の第18回開催（原寿郎会長、九州大学小児科）から12年ぶりとなります。私たちの周産期血液学がさらなる進化をとげるよう、学会のテーマは“Elegant Solution in Perinatal Hematology”としました。特別講演には、日本血液学会理事長の赤司浩一先生に血液学の最新のトピックスを解説いただきます。海外からの招待講演には、バンコクのマヒドン大学からNongnuch Sirachainan先生に新生児の血栓症についてお話し頂きます。血栓症や血管炎との関連が注目されているCOVID19拡大の水際対策の実際について、九州大学名誉教授の藤本秀士先生にご講演をお願いしました。母児の周産期における血栓塞栓症、血友病、そして周産期血液学に関する3つのシンポジウムを企画し、産科と小児科のDICに関するワークショップと移行期医療のセミナーも計画しています。この学術集会で各領域のエキスパートが議論を重ねた成果が、周産期血液学における様々な領域の課題解決につながることを期待しています。

Web開催は初めての試みとなりますため、いたらない点も多々あるかと思いますが、皆様方におかれましては、是非この新しい形式での学術集会をお楽しみいただきたく思う次第です。